

参加者の声



榛原高校3年
山本 弘史さん

「伝えること」の複雑さ、大切さを考えるきっかけに

活動を通しての一番の気づきは、「伝えること」の難しさです。私たちは、言葉や身体を使って話している時にだけ、何かを伝えているわけではありません。例えば聴き手というのは、その態度やリアクションによって発表者に興味や感想を伝えられますし、プレゼンの役割分担をするのは信頼を伝えることにもなります。このように、人は常に誰かに何かを伝えており、それらは間違えて伝わることもあります。「伝えること」がどれほど複雑であるか、またそれがいかに大切なことかについて、考えるきっかけになりました。

多角的に物事を考えられる人になりたい

私は、「積極性」と「物事を多角的に考えること」の大切さを学びました。初めて参加した時は内気になってしまい、あまり意見交換をすることができませんでした。しかし、自分から積極的に話しかけてみると、いろいろな人が私の話に耳を傾けてくれました。さまざまな世代の人とも話し合いをさせていただき、自分たちだけでは行き届かないような提案をしていただきました。これからの生活の中でも、視野を広げて多角的に物事を考えられる人になりたいです。



相良高校2年
清水 和奏さん

牧之原市自治基本条例施行10周年記念シンポジウム

未来の共創

— 牧之原市の自治の歩みを振り返り、対話と協働により未来の牧之原市を創造する —

開催決定!

■日時

8月27日(日) 午後1時30分～午後4時30分

■会場

相良総合センター い〜ら (須々木140番地)

■申込方法

市ホームページまたはQRコードから申し込む。

*会場行きバスがあります。

必要な人は申込時に併せて記入してください。



■申込期間

8月12日(金)まで

■内容

[基調講演] 北川正恭氏「対話と協働で住民自治の実現を！」

[パネルディスカッション] 「対話と協働による未来の牧之原市」

▶北川正恭氏 ▶佐藤淳氏 (青森大学社会学部教授) ▶杉本基久雄 (牧之原市長)

▶市民ファシリテーター (Musubi 原口佐知子氏、CLIP 武田てるみ氏)

■新型コロナウイルス感染対策

検温の実施、マスクの着用は必須となりますので、ご協力をお願いします。



北川 正恭(きたがわ・まさやす)氏

1944年三重県生まれ。早大商学部卒業。三重県議会議員3期、衆議院議員4期、三重県知事2期。知事退任後、早稲田大学政治経済学術院教授。現在同大学名誉教授、同大学マニフェスト研究所顧問。

「対話」から「未来の行動」を考える

地域リーダー育成プロジェクト

市では、高校と地域が連携・協働し、「①地域に誇りを持つ」「②将来、地域を担う」「③地域の課題解決に貢献する人材を育成する」ことを目的に、平成27年度から、市内にある県立榛原高校・相良高校と「地域リーダー育成プロジェクト」を実施してきました。

令和3年度は、市内の学校を再編してつくる「未来の学校」や、図書交流館いこっとなどが入る施設「ミルキーウェイクエア」など、牧之原市の取り組みをテーマに対話をしながら、ファシリテーションスキルや自分の考えを相手に伝える力を学びました。社会や地域について知ることを通して、自分にできることを考え、それぞれの将来につなげる機会となりました。

参加した高校生からは、「将来は地元に戻ってきて働こうと思えるようになった」「私たち高校生が、積極的に地域の未来を考えていきたい」などの感想がありました。

問い合わせ 地域振興課 今村優奈 ☎0053

令和3年度に取り組んだ内容

A コース

「対話を学んで未来を生き抜くヒントを見つけよう！」(全5回)

[講師] 市民ファシリテーター CLIP

対話やグラフィックのスキルを学びながら、市や自分自身の将来について話し合いました。

最終回では、これまで行ったワークショップを活かし、高校生だけで対話の場を作り上げました。



ファシリテーターから学ぶ



学校・学年問わず一緒に考える



グラフィックで対話を可視化

B コース

「”働くってこと”を考えよう」(全6回)

[講師] 市民ファシリテーター Musubi

社会や地域についての対話を通して、卒業後の進路に必要な「伝える力」を学びました。最終回では、「自分たちの未来」をテーマに、地域課題との向き合い方や自分たちの将来像を発表しました。



グループで話し合う



傾聴も大切に



これまでの学びを活かした発表

A plus コース

「自分を知り、相手を知り、話し合うことで見えない未来のしっぽを掴む」(全4回)

プロジェクト卒業生など、地域で活躍している大人の話聞いて、自分の生き方を見つめました。